

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	9
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	10

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

JRRN 国際活動 – 「水の持続性に関する国際シンポジウム@香港大学」参加報告

2019年7月11日(木)～13日(土)、香港大学・社会科学学院において、一般市民や専門家を対象としたJC-WISE プロジェクト主催『水の持続性に関する国際シンポジウム』が開催され、講演及び意見交換を通じて日本の経験を紹介するとともに、都市河川再生に関わるアジア交流をして参りましたので概要を報告します。

【1】JC-WISE プロジェクトについて

本シンポジウムは、香港公益財団 Jockey Club をスポンサーとした3年間で2億円のJC-WISE プロジェクト（水分野の持続性と住民参加戦略）の総括行事として開催されました。

- ◆JC-WISE プロジェクトホームページ（言語：英語）：
<http://www.jcwise.hk/>
- ◆シンポジウムホームページ（言語：英語）：
<http://www.jcwise.hk/symposium/2019/>

香港は、生活用水の7割から8割を中国本土の広東省東江からパイプラインで運ばれてくる輸入水に依存していますが、安価で安定的に供給される水道水に慣れ親しんでいる香港市民は、香港が水不足の都市であるという認識が希薄で、過去20年でも香港市民の水道使用量は増加傾向にあります。

こうした背景から、JC-WISE プロジェクトでは、生命の源である水の保全と持続可能性に対する香港市民の認識を高めることを目的に、学際的、制度的、分野横断的な連携により以下の二つの取組みを3年間で推進してきました。

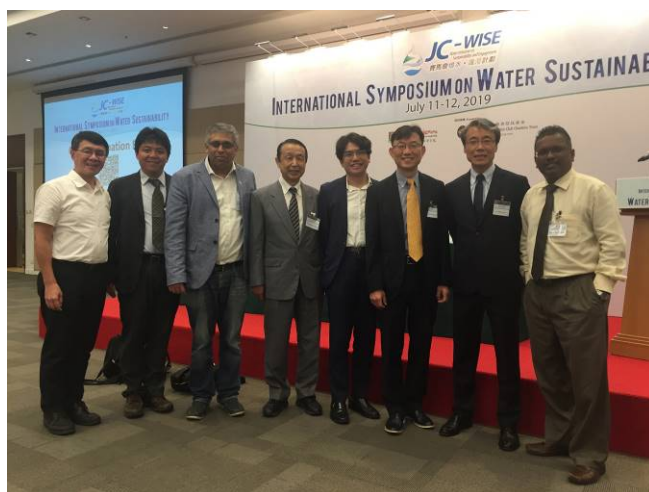
- ① 人と川のつながりの再構築による水の多様な価値の理解促進
- ② ウォーターフットプリントの概念浸透による水消費行動の意識改革

【2】水の持続性に関する国際シンポジウムについて

今回のシンポジウムは、①持続可能な水に関する政策と管理の実践、②ウォーターフットプリントの概念の適用、③河川再生と水の持続可能性に関する教育などを主テーマに、3年間のJC-WISE プロジェクトの成果や教訓、及び諸外国の経験を国内外の参加者で共有することを目的に開催され、聴講者はNGO、市民、行政、研究者、実務者と多岐に及びました。

特に上記3つ目のテーマ「河川再生」に関連して、JRRN が事務局を担うアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)会員のJRRN（日本）、KRRN（韓国）、GEC（マレーシア）も招待され、香港の都市河川再生や人と川の関わりの再構築に向けてARRN チームとして微力ながら貢献できたと思います。

なお、日本（JRRN）からは「都市河川再生」及び「水の持続性に向けた環境教育」の二つのセッションで日本の経験を発表し、都市河川再生や住民参加に関わる各国の知見を共有する貴重な機会となりました。



講演終了後の記念撮影

【3】海外参加者による香港の都市河川視察

二日間の香港大学を会場としたシンポジウムを終え、7 月 13 日（土）は、シンポジウム主催チームと海外からの参加者で香港の 3 つの都市河川を視察しました。

各視察先河川では、河川を管理する香港特別行政区政府渠務署(DSD: Drainage Services Department)の職員より事業内容や今後の計画について熱心に説明を頂き、香港の都市河川がこれから大きく変わろうとしている状況が伝わってきました。以下に写真で視察先河川の様子をご紹介します。

(1) Kai Tak River

間もなく完成する香港初の本格的な都市河川再生事業。



(2) Tai Wai Nullah

河川再生を検討中の典型的な香港の都市河川。



(3) Lam Tsuen River

自然豊かな河川整備の試験施工区間。



JRRNと香港との河川再生に関わる交流は 10 年目を迎え、過去 6 回の来日視察支援を通じて共有してきた日本の川づくりの経験が香港でも着実に生かされつつある印象を受けました。今後も日本とアジアの川づくり交流の橋渡しを担いながら、河川再生ネットワークとしての役割を果たしていければと思います。

(JRRN 事務局・和田彰)

8月



撮影：2019年7月（埼玉県 三郷市 鷹野）



あの日のあの川 リレー日記 ～第45話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第45話主人公 中村碩希

（筑波大学社会国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（■川ガール・□川系男子）

（出身地を流れる川：埼玉県江戸川）

「思い出と今」

いつのこと？：小学校

どこの川？：江戸川

私の生まれ育った埼玉県東部は全体が低湿な土地であり、私の住む三郷市は東西を中川と江戸川に挟まれています。そのような三郷で生まれ育った私にとって、川は幼少のころから自分の生活のすぐそばに流れているものでした。私の住んでいる場所での川は下流域ということもあり、川の中で遊ぶというよりは、川の近くの河川敷や土手などで遊ぶことが多かったです。特に私が通っていた小学校は江戸川の土手のすぐ真下にあり、私にとっての川、河川敷、そして土手はとても大切な遊びの場であり、同時に自然に触れ合う学びの場でありました。

今回は私の小学生時代の川とのふれあいを振り返りながら子供にとって自然とふれあいがどのように今の私の中に息づいているのかを考えてみたいと思います。

小学生のころの江戸川での記憶は四季折々の姿があり、またそこで四季を感じながら遊んでいたことが印象深く残っています。

春は土手一面に咲く菜の花を見に行き、菜の花を摘んだり、冬が明けて久しぶりに見る蝶や、鳴き声と飛び方が面白かったヒバリを見つけ、夏は暑さから逃れるように川の近くや橋の下で涼んで友達と話したり、それに飽きたらバッタなどの昆虫を追いかけまわしたり、花火大会で友達や家族と花火を見たりしました。秋になると高水敷に大きなススキが群生していたところを今から思えば危険なことです。探検と称して友達と歩き回っていたことが今でも思い出します。そして冬には今まで緑があふれていた土手も枯草になり、そこで風揚げや芝滑りなどをしていました。特に芝滑りは、家からダンボールを持ってきて自分で芝滑り用のそりを作り友達と競争したことは本当に楽しかった記憶になっています。

それ以外にも祖父とフナやハゼなど釣りに行ったり、河川敷の広場のようなところで野球やサッカーなどをしたり、私の中で江戸川は小学生時代の遊びの中心的なスポットでした。

その後中学高校へと進学したときも江戸川は朝や夜にランニングをしたり、久しぶりに近所に住む友達とサッカーをしたり大学生になりこれから社会に出ていこうとしている今でも江戸川は運動の場や気分転換などができる憩いの場所として利用しています。

この記事執筆するにあたって江戸川に実際に足を運んだ時も土手で遊んでいる小学生や少年野球をしている中学生、犬の散歩をしている近所の方や自転車やランニングで汗を流している大人様々な人が江戸川で思い思いの時間を過ごしていました。そして今まで気が付かなかったのですが、町の景色は私が小学生だったころに比べて田んぼや畑が無くなり、宅地が増え、次々に変わっている一方で、江戸川の風景は私が子供だったころと何ら変わらぬものでした。そのことに気が付いたときはなんだか無性に懐かしく、うれしい気持ちになりました。私にとって江戸川は生まれた時から自分の身近なものでしたが、このように世代を問わず同じ風景中で思い出を作り、そして年齢も関係なく皆が利用したいと思える川というのは実はとても貴重で価値のあるものなのだなと思いました。

(次号は10月号にて松本さんにバトンを託します)

■ 連載『あの日のあの川 リレー日記』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下よりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/riverdiary>

水辺からのメッセージ No.123

岡村幸二 (JRRN 会員)

大阪港のシンボル： 大阪港の海の玄関口にそびえる 最先端技術が支えるゲート橋



撮影：2019年7月（大阪府大阪市港区・港大橋）

◆日本一の3径間ゲルバートラス橋

大阪港で最も船舶航行量が多いことから、全長 980mの長大トラス橋となりました。中央径間 510mは世界第3位の規模を誇ります。大阪港のランドマークとして変わらぬ存在感を示しています。

◆斬新な地震対策設計

地震時に道路部がスライドして橋のトラス部材を損傷させないための「すべり免震支承」や、主要部材を補助する部材への座屈拘束ブレース等の「制震技術」により、二度目の田中賞を受賞しました。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

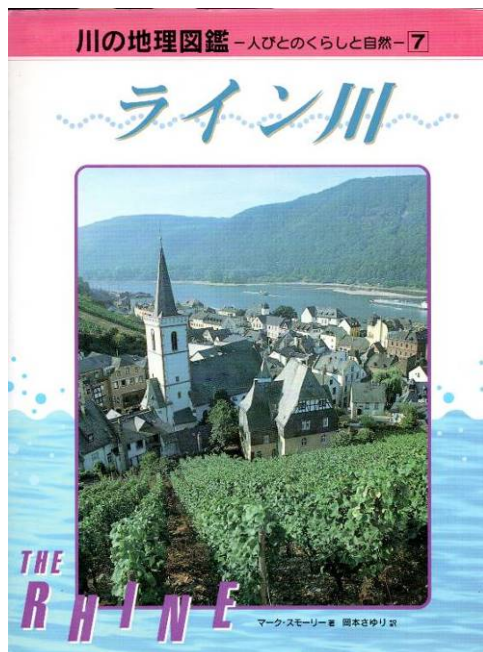
河川書の探求(16)

西ヨーロッパの発展をなすライン川

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

1. ライン川の流れ

ライン川は、スイス、オーストリア、フランス、ルクセンブルク、リヒテンシュタイン、ベルギー、イタリア、ドイツ、オランダのヨーロッパ 9 カ国を流れる国際河川である。水源は、スイスのアルプスの奥地から流れだす、雪解け水である。



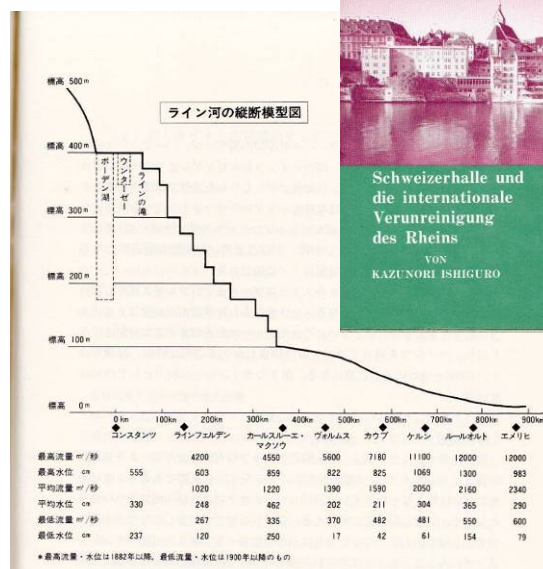
マーク・スモリー著『ライン川』(偕成社・1995 年)は、ライン川の水を調節する美しいボーデン湖から、アルプスライン・高地ライン下り、フランスのバーゼル、ストラスブール、ドイツのマン

ハイム、マインツ、ビンゲン、ボン、ケルン、デュッセルドルフ、オランダのロッテルダムに至り北海までを辿る。運河建設による水上交通、ロッテルダムのユーロポートの発展、炭田の開発後・ルール地方の工業地帯には、製紙工場、石油化学工場、石油精製所、火力発電所、原子力発電所が並んでいる。

1986 年 11 月 1 日バーゼルのスイスの三大化学薬品メーカーの一つサンド社の倉庫から火災が起こった。消防隊が放水した 1,000 トンの水とともに、水銀などの有害物質を含んだ農薬、化学薬品など 30 トンがライン川に流れ、川は赤く染まり、水中の生物は 560 キロ先まで死んだ。最も清らかな上流 200 キロが死んだ状態になってしまった。

さらに、ロマンティック・ラインでは、ライン峡谷にあるローレライ像、数々の古城を案内する。ボーデン湖畔、ラインハッセル地方のライン産ワインを紹介する。ジュニア地理・川と生活を著した C.A.R.ヒルズ著『ライン川』(帝国書院・1987 年)がある。

なお、1986 年 11 月 1 日に起こったサンド社の火災事故について、石黒一憲著『国境を越える環境汚染－シュヴァイツアー・ハレ事件とライン川－』(木鐸社・1991 年)には、火災事故とその背景、国際環境汚染の実態、西ドイツ・スイスの国際私法の改正、ライン川国際汚染防止への条件枠組と一般国際法などが詳細に論ずる。



2. ライン川の紀行



ライン川をスイスの渓谷からオランダまで 1,320km の流れの旅は、多くの人たちが魅了される。加藤武男著『ライン河の源流紀行－9カ国 自転車ひとり旅－』(文芸社・2007年)は、2006年6月2日アムステルダムからライン川源流を目指しての旅が始まった。ケルン～ボン～ワインの町・リュースハイム～ハイデルベルクへ、途中で自転車を盗まれるが、6月22日新自転車でラインの滝に到着する。船の航行はここまでである。滝は高さ 25 メートル、幅 150 メートルもあり、5 階建てのビルからライン川の水が落ちてくるような、すごい量の水が流れてくる。「自分の目の高さでライン川を見ながら自転車でここまで来てみると、さらにライン川に対して、温かい親しみがこみ上げてきた」という。

秋本和彦・小塩 節他執筆『ライン紀行 1300 キロ』(新潮社・1987年)には、山口青邨のバーゼルにて、斉藤茂吉のマインツの一夜、兼常清佐のベートーヴェンの家、コロネン縁起などが収められており、日本文学者がライン川を巡り、親しんでいることが解る。

鈴木 享著『ライン河の古城』(鷹 書房・1982年)には、カラー写真で、岩上のラインシュタイン城、中世の町ゾーネック城、十字軍伝説のノーリツヒ城、ラインに浮かぶ軍艦ファルツ城、カウプの町とグーテンフェルズ城、中世城郭の原型とどめるマルクスブルグ城などをラインの船上から捉える。古城の構造の特徴を次のようにあげている。

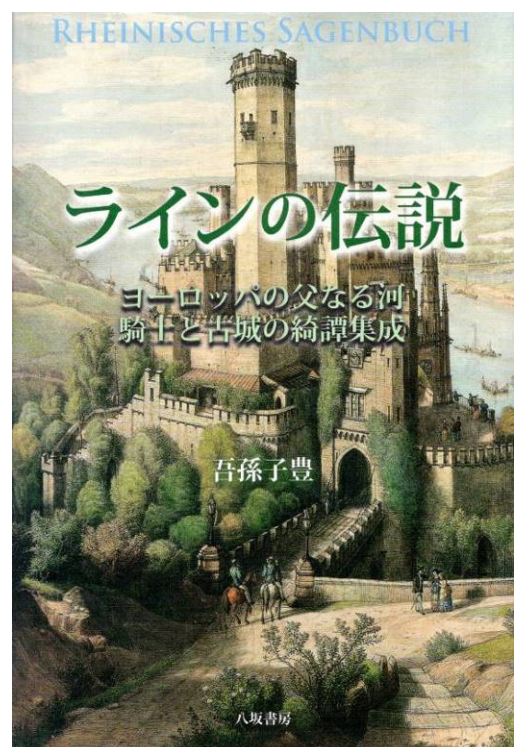
①城主の住居のある本館は、台所、居間、婦人の間、宴会場、舞踏会場、寝室であり、日本の城主は天守閣のある本

丸には住まず、二の丸御殿に住む。②天守閣は城内で最も見晴らしいのいい塔である。城が攻撃を受けた時は、ここが司令塔になる。塔の底部は地下室になっており、牢獄を設けている。③頑丈な礼拝堂がある。④行政施設があり、役所、通行料徴取所、家臣の住居、兵器庫、穀倉、鍛冶場、ワイン醸造場などがある。⑤城門である。⑥城門と内郭を結ぶ跳ね橋である。非常の場合は、橋を引き上げて侵入を防ぐ。日本の城との相違は興味を引く。ワインに関しては、新井皓士著『ドイツ・ラインとワインの旅路』(東京書籍・1994年)がある。吾郷慶一著『ライン河紀行』(岩波新書・1994年)。

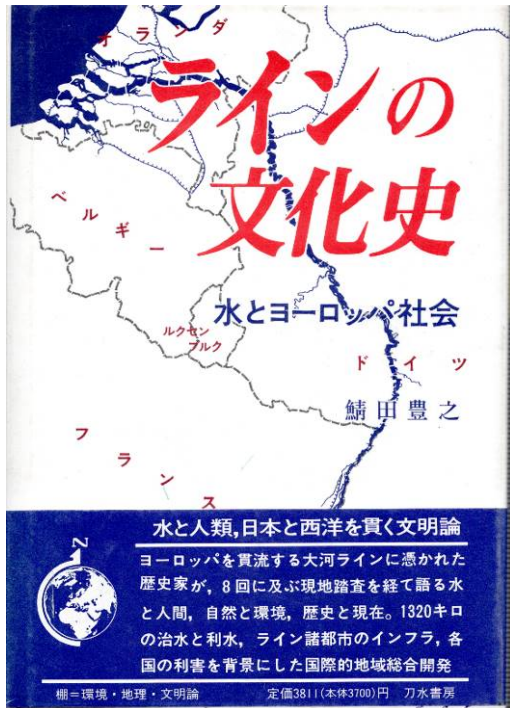
3. ライン川の伝説

ライン川はアルプスの水源から北海まで、9 カ国の地域に流れるなかで、様々な伝説が生まれる。ローレライというのは、妖精の岩のことである。昔、七人の乙女が余りの心の冷たさに岩になってしまった。水量が少なくなると七つの岩が姿を現すと言う。以後、彼女らはこの断崖に棲みつぎ、その美しい姿と歌声でラインの船乗りを惑わすことになった。そのため岩に激突して溺れ死ぬ船乗りが続出したという。この伝説は、ハイネの詩「ローレライ」で知られる。

吾孫子 豊著『ラインの伝説』(八坂書房・2017年)は、ヨーロッパの父なる河 騎士と古城の奇譚集成である。浅井治海著『昔話でつづるライン川の旅』(日本図書刊行会・1999年)では、マインツからケルンまでの間の昔話を収録する。マインツの車輪の紋章の始まり、マインツのどんぐり石のいわれ、聖母マリアから靴を貰ったマインツのバイオリン弾き、フン族にケルンの町は占領できないと予言した聖ウルズラ、家の精たちがケルンから逃げ出すなどが収録されている。



4. ライン川の文化史



ライン川は古代から流れる。1868 年以來、通行自由を保障された国際河川であり、接続する運河・支流を合わせると、数えきれないような船が上下する。そこには必ず歴史や文化もまた、流れている。

小塩 節著『ライン河の文化史』(東洋経済新報社・1982 年)では、ライン河の歴史は、軍隊や国家の争いよりも、むしろ流域の平野、山岳、農村、都市、とりわけの森林の歴史であり、人間の営為の歴史にあるという。ライン河は大部分が平野の川であって、主として舟運に用いられ、水田稲作にはまったく利用されていない。ライン河の港として発展した諸都市が広いヒンターランドを持ち、それを富ませながら相互協力のうちに自らも発展してきたと指摘する。この視点から、ライン河を治いの港湾都市を探求する。

鯖田豊之著『ラインの文化史－水とヨーロッパ社会－』(刀水書房・1995 年)は、ライン河について、総合的に捉え、ヨーロッパとの社会にどのように与えているが論じて、素晴らしい。その内容は、第 1 章 ヨーロッパとライン河では、新しい物流の時代－コンテナとローロー船、政治がらみライン水運中央委員会、航行に不可欠な水位表。第 2 章 野生ラインの制御では、前・後ラインの発電用ダム、高ラインの水力利用、原子力発電と砂利投下、ネッカー高水とマイン高水。第 3 章 あいつく岩盤の爆破、モーゼルの運河化とモーゼル高水、低ラインの河床沈下はいつまで、神経質なルールナルト量水量の微調整。第 4 章 環境保全と自然浄化では、サケ・マス魚の衰退、ラインの 10 大汚染源の公表、冷却水と温排水、サンド社事故後も自然浄化力は健在、ラインの回復はヨーロッパの先例になるか？などを、論じる。

笹本駿二著『ライン河物語』(岩波新書・1974 年)、加藤雅彦著『ライン河－ヨーロッパ史の動脈－』(岩波新書・1999 年)を掲げる。

5. おわりに

以上、いくつかの書でライン川について、みてきたが、日本の河川との相違も感じられる。

日本と違って、急流な河川でないライン河はアルプスから流れ出す清浄な豊富な水量を誇り、ヨーロッパの 9 ヶ国に沿って流れる国際河川である。最も効用を発揮しているのは、運河と支流で結ばれた舟運の発達であろう。舟運を土台として、各国相互の産業発展である。そして、観光を含めた歴史や文化の発展を備えている。ライン川は偉大な河川である。

■ 連載『河川書の探求』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/library>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2019年7月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ アユ漁体験と魚捕り in 都幾川・高麗川・越辺川 (8/10, 8/18, 9/8 開催)

NPO 法人荒川流域ネットワークより、本年夏の都幾川、高麗川、越辺川をフィールドとした魚捕りイベントのご案内です。



■日時：2019年8月10日(土)、8月18日(日)、9月8日(日) 各 9:00~12:30

■場所：荒川流域 都幾川、高麗川、越辺川

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3445.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ ドボ博『川展』予告動画公開のご案内



公益社団法人土木学会が運営するオンライン博物館「ドボ博」より第二回ドボ博展示「川展」予告動画公開の案内が届きました。

第一回「東京インフラ解剖」に続く第二弾として、「川」をテーマに、日本全国の川について、様々な視点から切り込みます！！

「川番付」などの企画も進行中ですので、乞うご期待！！

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3449.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第27回 リバーフロント研究所研究発表会 (9/18 開催)

公益社団法人リバーフロント研究所より本年の研究発表会のご案内です。



■日時：2019年9月13日(金) 13時00分~17時30分

■場所：日本橋社会教育会館8階ホール(東京都中央区)

■主催：公益社団法人リバーフロント研究所

■参加費：無料

※土木学会認定 CPD プログラム (CPD 単位 4.0)

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3472.html>

【海外からの提供情報】

■ RRC (英国河川再生センター) 最新会報紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2019年7月号) が事務局より届きました。

本号では、今後予定されている RRC 主催の4つの河川再生研修コース、RRC が提供する川づくりに関わるサポート機能の紹介、また英国及び欧州で開催される河川再生関連行事等が紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3476.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ クラウドファンディング「伊勢湾台風から60年 迫りくる！スーパー伊勢湾台風に備えるために」ご支援のお願い

昭和34年9月26日、伊勢湾台風が紀伊半島に上陸し、未曾有の巨大災害となりました。我が国全体で死者・行方不明者が5,098人に達し、とりわけ伊勢湾に面した愛知・三重の両県では合わせて4,000人以上、名古屋市だけでも1,900人以上が犠牲者となりました。

名古屋大学減災連携研究センターでは、伊勢湾台風襲来から60年を迎えるにあたり、新たに収集・分析した当時の被災情報や「スーパー伊勢湾台風」による想定被害状況など、調査研究の成果を反映した特別企画展を実施し、関係機関と連携した特別シンポジウムを開催いたします。加えて、伊勢湾台風ゆかりの場所を巡る見学会の実施を目指してまいります。

このたび、クラウドファンディングを通して上記活動に必要な資金を広く皆様より募集いたします。何卒、温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(募集期間) 2019年7月1日(月)~9月26日(木)

(目標金額) 200万円(寄附額が目標金額に満たない場合、プロジェクト不成立となり返金をいたします。)

◆詳細は右記参照：<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3440.html>

会議・イベント案内 (2019年8月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■「水の日」記念行事 水を考えるついで

- 日時：2019年8月1日(木) 14:00～17:15
 ○主催：水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会 他
 ○場所：パークタワーホール(東京都新宿区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2987.html>

■第28回市民セミナー：災害・防災の視点。水環境分野から見えること、できること。

- 日時：2019年8月2日(金)
 ○主催：公益社団法人日本水環境学会
 ○場所：地球環境カレッジホール、いであ(株)大阪支社ホール

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2972.html>

■清流の郷づくりフォーラム

- 日時：2019年8月9日(金) 13:30～16:00
 ○主催：兵庫県
 ○場所：香住区中央公民館(兵庫県香美町)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2981.html>

■第9回マザーレイクフォーラムびわこミ会議2019 ～びわ湖のこれまで、そしてこれから～

- 日時：2019年8月31日(土) 10:00～16:30
 ○主催：マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県
 ○場所：コラボしが21(滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2949.html>

■外来魚駆除大会 in 琵琶湖

- 日時：2019年9月8日(日) 10:00 - 15:00
 ○主催：琵琶湖を戻す会
 ○場所：津田江1(北)湖岸緑地(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2999.html>

■応用生態工学会 第23回大会 公開シンポジウム：ここまで進んだ生態系観測技術の最前線

- 日時：2019年9月29日(日) 午後
 ○主催：応用生態工学会
 ○場所：広島大学東広島キャンパス(広島県東広島市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2983.html>

■第12回いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都

- 日時：2019年10月5日(土)、16日(日)
 ○主催：いい川・いい川づくり実行委員会 他
 ○場所：ピアザ淡海・滋賀県立県民交流センター、コラボしが21(滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2995.html>

■第11回応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 耳川

- 日時：2019年11月14日(木)～15日(金)
 ○主催：応用生態工学会 普及・連携委員会
 ○場所：宮崎県日向市 他

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2970.html>冊子等の紹介 *Publications*

■小さな自然再生サミット～できることから始めよう～ 2019 神戸大会 開催報告 (2019.2 発行)

- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2019年2月
- ・ページ数：43ページ



2019年1月26日(土)～27日(日)に神戸にて開催しました『小さな自然再生サミット 2019 神戸大会』の開催成果報告書です。

この開催報告は、サミット参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真とともに皆様にご紹介するものです。

■「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」(2015.3 発行)

- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編著：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



本事例集は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が、小さな自然再生の全国への普及を目的として制作したものです。

■上記冊子の入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

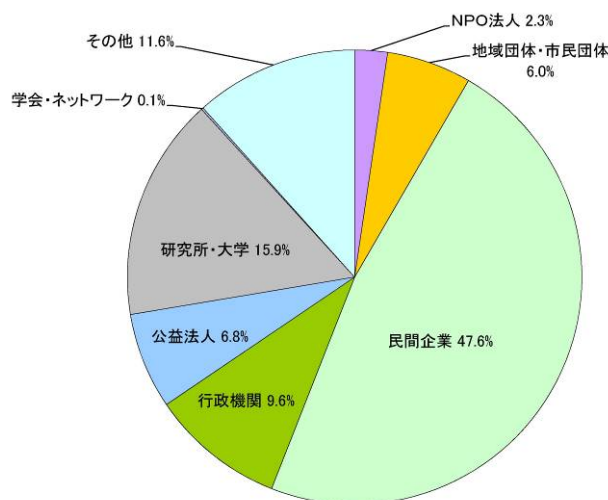
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019 年 7 月 31 日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：797 名、団体会員数：60 団体)

※7 月の新規入会数：個人会員 0, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRANが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>